

早期の保育園利用は 3歳時点での発達を促す

研究の背景と目的

共働き世帯の増加に伴い、保育園利用率は過去10年で増加しました。保育園に通うお子さんの半数は3歳未満で、このうち17%が0歳児でした。(令和5年版厚生労働白書より)日本では早い時期からの保育園利用に対し、発達の面で心配をされる方も多く、“3歳児神話”などと呼ばれることもあります。

そこで、この研究では、エコチル調査の参加者のうち、約4万人のお子さんのデータから、早期の保育園利用と3歳時点での発達について調べました。

質問票調査から以下の2つのグループについて、3歳時点でAges and Stages Questionnaires® (ASQ)-3(※1)がカットオフ値未満(=発達の遅れが疑われる)の数を比較しました(※2)。

参加者39,894名

保育園あり群 13,674名

生後6か月から1歳の間で保育園に通園を開始し、その後3歳まで継続して通園していたお子さん

保育園なし群 26,220名

3歳まで一度も保育園の利用がないお子さん

- 1 コミュニケーション: 名前を言う
- 2 個人社会スキル: 服を着る
- 3 問題解決能力: ブロックをまねして並べる
- 4 粗大運動: ボールを蹴る
- 5 微細運動: ビーズに糸を通すなど

質問の回答に応じて点数が付けられ、それぞれの合計点が、各領域で決められている「カットオフ」値を下回った場合に、発達の遅れの可能性が示唆されます。

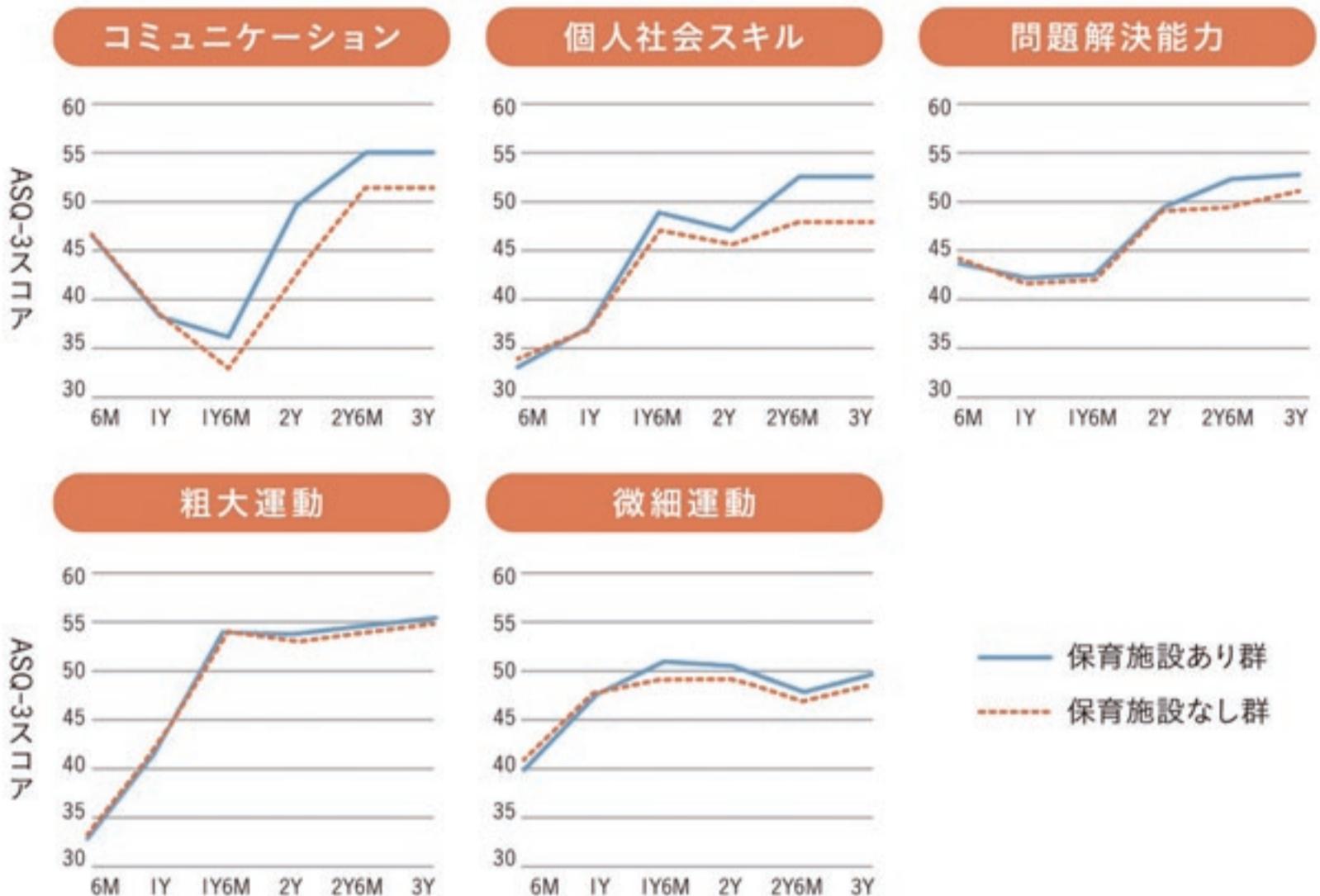
※1 Ages and Stages Questionnaires® (ASQ)-3

1〜66か月(5歳半)の小児の発達遅滞をスクリーニングするために設計されたツールで、5つの領域に分かれた30項目の質問で構成されています。

※2 習い事の有無、家族構成、両親の学歴、世帯収入、母親の職業、スクリーンタイム、性別、母親の神経発達症の有無を交絡因子として調整しました。

研究結果

生後6か月時点でASQ-3がカットオフ値を下回った数に差はありませんでした。一方、3歳時点では、すべての領域においてで保育園あり群でカットオフ値を下回った数が有意に少ない結果でした。



今回の研究から分かったこと

早期に保育園を利用することで、家族以外の大人や、他の児との交流を通じて他者との関わり方を学び、コミュニケーションなどの社会性が身につくと考えられました。さらに、様々な遊びを通して身体的な活動を行うことが、運動能力の向上につながったと考えられました。

なお、家庭育児にも、保育園育児にもいずれにもメリットはありますので、家庭育児を否定するものではありません。